の負担を少なくした装着方法なので、外れることは予想していました。そこで、前回の反省をふまえ再度取り付けを行いました。義嘴がよほど便利だったのか、装着後は外そうとする行動は見られません。

現在、経過観察中ですが２羽の関係が良くなれば春に繁殖してくれるかもしれません。兵庫県豊岡市では、飼育下のコウノトリを野生に戻す試みが行われており、試験放鳥が行われました。コウノトリのような大型鳥類が空を飛ぶ姿はとても雄大で、やはり鳥は空を飛ぶものだと思いました。いつの日か大森山で産まれたコウノトリが大空を舞う姿を夢見ています。

▲2004年11月28日上嘴折れた直後

▲2005年12月８日 再装着の治療風景

▲2005年11月18日義嘴装着後

動物病院から

チンパンジーの人工哺育

飼育展示担当（獣医師）高　橋　広　志

昨年11月22日（良い夫婦の日）、チンパンジーのボンタ（雄、34歳）とジェーン（雌、38歳）の間に待望の男の子が生まれました。昨年度も同ペアで子をもうけましたが、残念ながら12日間と短い一生を終わらせてしまいました。その原因は、ジェーンの母乳の出が悪かったことが考えられました。なにしろチンパンジーの38歳は、人で言えば60歳前後と考えられるので無理もありません。今年は、昨年の失敗を教訓に赤ちゃんの状態が悪化した11月28日（生後６日目）、すぐに人工哺育に踏み切りました。

動物病院に入院したときの赤ちゃんの体重は、1.2kgと非常に軽く、あばら骨も浮き出ていました。脱水症状もあり、ただでさえしわくちゃの顔が、一層しわしわでした。哺乳ビンでミルクを与えるのですが、初めは吸い方が分からないため乳首を口の中に入れても吸わず、1滴1滴ミルクを口の中に垂らすようにして、30分程かけて10～20mℓを飲ませるのがやっとの状態でした。

生後10日頃から、自力で哺乳ビンの乳首を吸うようになり、12日を過ぎる頃には、吸う勢いが強すぎて、むせることもしばしばです。日に日に授乳量も増加し、生後20日には、1回に50mℓ、１日に300mℓも飲むようになり、体重も1.8kgを越えました。

普段は、保育器の中で、人用の紙おむつをつけ、飼育員からもらったオランウータンのぬいぐるみにしっかり掴まって、幸せそうに寝ています。あくびをしたり、口をすぼめたり、様々な顔の表情の変化はヒトとの近さを感じさせます。すくすくと育って、チンパンジーの森の住人として皆様の前に出られることを願っています。

▲元気にミルクを飲む赤ちゃん

飼育動物数

	種類	点数
哺乳類	62	340
鳥　類	57	250
爬虫類	14	42
両生類	3	11
魚　類	4	28
合　計	140	671

（平成17年11月末現在）

編集後期

「冬の閉園中、動物たちはどうしてるの？」よく訊かれる質問の一つです。そこで今年からは、１～２月の土・日・祝日開園して、冬の動物園も見て頂けるようになりました。過ごし方は動物によって様々ですが、寒さに耐えながら一所懸命生きている動物たちの姿を是非ご覧下さい。　高橋　広志（ ◌◌ ）